

# 丹波市山南町から産出した前期白亜紀のタニシ科巻貝化石

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

生野賢司



私の研究対象は元々アンモナイト類の化石ですが、篠山層群の研究に関わるようになってからは、巻貝の化石も研究しています。現在取り組んでいるのは、丹波市山南町から産出したタニシ科巻貝の分類です。

丹波市と丹波篠山市には、恐竜化石が産出することで知られる篠山層群という地層が分布しており、脊椎動物の化石とともに無脊椎動物の化石も少なからず発見されています。篠山層群から巻貝の化石が産出すること自体は 1950 年代から知られていました。しかし、化石の特徴が詳しく記述されたり、標本の写真が図示されたりしたことはなく、詳細な検討は行われてきませんでした。

2017 年に山南町の化石産地「上滝第二」で巻貝の化石が発見され、2018 年以降に地元の上久下自治協議会主催で実施された試掘調査（図 1）においても、多数の巻貝化石が発見されました。化石の大半は変形したり、破片化したりしていますが、中には殻のほぼ全体が変形することなく保存されている標本もあります（図 2）。私はこのような標本を詳しく観察し、他の地域から報告されている化石と殻の形態を比較することで、詳しい種類の特定を進めています。



図 1. 丹波市山南町で実施された試掘調査の様子。地元の発掘ボランティアとともに地層を掘り、慎重に割って化石を探した。



5 mm

図 2. 上滝第二で産出したタニシ科巻貝の化石。恐竜ラボでクリーニング作業が施された結果、一部を除き殻のほぼ全体が変形せずに保存されていることがわかった。